

# わかやま

No.19

和歌山県精神保健福祉センターだより 2004年4月

## 「開始されるひきこもり支援」

和歌山大学保健管理センター長 宮西 照夫

現在、ひきこもる若者は80万人以上いるといわれています。しかし、その人数だけでなく遷延化が深刻な問題となっています。私の元に20件近い相談が寄せられ、しかも、不登校を経て6、7年もひきこもっているといった悲痛な訴えがほとんどです。

ひきこもりは高度成長期に出現し、増加し続けているとの認識に異論はないようです。これまで日本特有の現象と欧米諸国で考えられていたのですが、韓国でも、1980年代から問題化しています。私が関与した100名あまりの大学版不登校といえる不適應障害の学生さんのカルテを整理したところ、いろんなことが分かってきました。例えば、80年代ではチューデント・アバシーに代表されるように、学業だけが出来ない選択的なものであったのに反し、90年代に入ると社会生活全般からのひきこもりへと深刻化しつつあること、彼らは知識が豊富なのに反し、少年期に友達と遊ぶ機会を失い、人間関係作りが稚拙なまま思春期を迎え、複雑な人間関係から撤退し、仮想空間の中で楽しみを求めようとする傾向が強く見られることなどです。一方、その解決のためのヒントも提示してくれていました。自然発生的に誕生した自助グループが、下宿や自宅にこもる学生のアミーゴ（心を許せる仲間）となりひきこもりからの脱出を助け、また、大学内で彼らの「居り場」を創り出していたのです。

一度ひきこもり状態から脱しても、些細な契機で再度ひきこもることが多く、この再発を防止するにはソーシャル・スキルやコミュニケーション能力を高める必要があります、ここでも自助グループが効果を発揮することが明らかになりました。

最近、学外からの相談にも出来る限り応じることにしたのですが、その認識の甘さを痛感させられています。学外から助けを求める声が日に日に多くなり、しかも、遠方からの長期間にわたりひきこもる青年の家族からの依頼がほとんどで、アミーゴの家庭訪問は半年以上に及ぶようになりました。それで、私や十数人の学生ではとても要望に応えられなくなりました。

さらに、家庭訪問してひきこもる若者を診察した結果、社会的ひきこもりでなく、早急に治療が必要なケースが3～4割も占めることがわかりました。専門家の家庭訪問による診断、実態把握が急務です。

ひきこもりを解決するには、アミーゴ派遣から少なくとも仲間作りまでのプログラムを用意しておかないと意味がありません。もはや、一グループでの解決は不可能であり、県単位での系統だった取り組みの必要性に迫られていると思います。

幸い、NPOの方の努力により、多くの「居り場所」が創出されてきました。そして、今年度より精神保健福祉センターで本格的な取り組みが開始されると聞きました。

県下のひきこもりの実態の把握や、ネットワーク作りなどが進み、県下のすぐれた活動が苦しむ若者のために生かされる環境作りが開始されることを願っています。

### もくじ

- P 1 開始されるひきこもり支援
- P 2 NPO法人 共同作業所「エル シティオ」
- P 3 アミーゴの会活動紹介
- P 4 「ひきこもり」者の社会参加を願って～県とNPOが連携～
- P 5 メンタルヘルスニュース  
朝井所長のひとりごと
- P 6 は一とふるネットワーク「田辺保健所 東登紀子さん」  
研修のお知らせ

和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階

☎ (073) 435-5194 FAX (073) 435-5193

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/050300/050301/index.htm>

このコーナーでは県下の社会復帰施設を紹介します。  
第7回は、和歌山市にある「エル シティオ」です。

## 共同作業所 エルシティオ

新堀作業所横丁にある共同作業所「エル シティオ」です。  
入所登録14名、そのうち約7名が通所している、ひきこもり  
支援のための作業所です。

### 【エルシティオの活動紹介】

エルシティオは、和歌山県教職員組合の不登校相談活動、  
それに伴う和歌山大学プラットホームの10年以上に及ぶ  
不登校支援サークル活動、麦の郷などによる作業所運動、  
そして、ひきこもりの青年が100万人を超えるといわれ  
ている現状、そういったさまざまな要素が要求したものの  
ひとつの可能性として生み出されたものです。

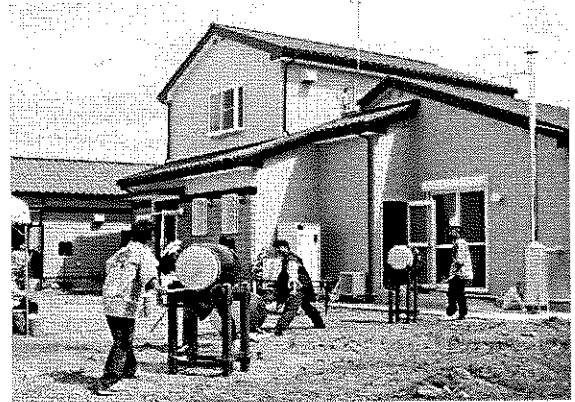
昨年度NPO法人格を取得しまして今後より幅の広いひ  
きこもり支援を展開していきたいと考えていますので、ご  
協力よろしく申し上げます。早速ですが、2004年5月  
23日より、NPO事業第1弾としまして「エルシティオ  
ゼミナール」を開講します。興味のある方は、是非ともエル  
シティオまでお問い合わせください。

さて、エルシティオの日常業務としましては、相談・訪  
問そして就労支援があります。相談は50件/月ほどあり、  
そのうち入所者の家族相談も含めて30件ほどが継続相談  
です。基本的には電話で予約を取っていただくという形に  
しているのですが、とびこみでの相談が数多くあります。「ひ  
きこもり」ということで話題性があるのでしょうか新聞な  
どで紹介していただく機会も多く、その度に多くの問い合  
わせがあり、遠くは北海道や福井県から相談にみえられた  
方もありました。

北海道や福井に訪問とはなかなかいきませんが、市内及  
び近隣であれば訪問も行います。相談との2本柱という  
ことが基本になります。そして、家族の理解と協力、でき  
れば本人の同意が、訪問を行う際の条件になってくるかと思  
います。

### 【活動沿革】

- 2001.12 作業所準備会発足
- 2002.04 相談活動開始
- 2002.05.13 共同作業所設立総会
- 2002.07.13 ひきこもり講演会
- 2002.08.31 竣工式
- 2002.09.02 開所
- 2003.05.17 ひきこもりシンポジウム
- 2003.10.14 NPO法人設立総会
- 2003.10.16 ひきこもりサポート Jazz Live
- 2003.11.30 「助走、ひきこもりから」出版
- 2003.11.25 ハートショップ開所
- 2004.01.27 NPO法人格取得



就労支援としては大阪体育大学内で、熊取の作業所と共  
同経営している販売所があります。ここは、福祉を学ぶ学  
生の支援を受けながら作業所利用者たちの社会進出への大き  
な足がかりとなっています。そして、学生にとっては日常の中  
に実習の場があるという有益な取り組みになっています。

また、協力してくださる企業家の方がおり、人と人との  
関係を築くことが苦手な人であるということを理解してく  
れる職場を提供していただいています。そこでは安心して  
自分の能力を発揮できる利用者が生き生きと働いています。

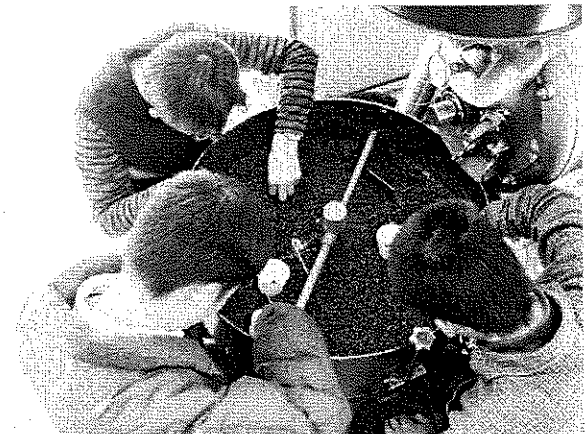
通所している利用者は日々美味しいコーヒーづくりに邁  
進しております。細かいピッキングの作業に耐え、第六感  
までを駆使して焙煎し、心を込めて袋詰めをする。手を抜  
かぬ日々の努力があるからこそ自信を持ってお勧めできる、  
エルシティオのコーヒーがあります。機会がありましたら  
是非ご賞味下さい。さらに、コーヒー豆輸入を通じて、グ  
アテマラの国際NGOとの連携も生まれつつあります。

また、保健所をはじめとする行政各機関、病院・クリニ  
ック等の医療機関、教育相談センター、社会福祉法人、和  
歌山大学の不登校支援サークル「プラットホーム」、ひきこ  
もり支援自助グループ「アミーゴの会」など、幅広い支援  
ネットワークを構築していき、懐の深い支援体制を作り上  
げていきたいと考えています。

連絡先 〒640-8319 和歌山市手平 6-112-1

NPO法人共同作業所「エルシティオ」

TEL 073-432-2170

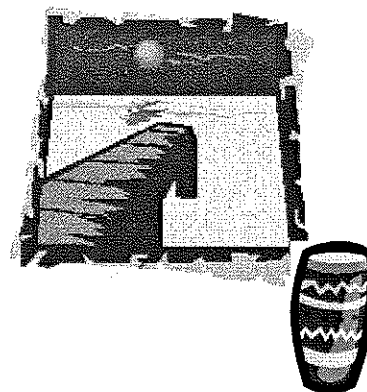


このコーナーでは、シリーズで県内の組織やグループの活動を紹介します。  
今回は、和歌山大学アミーゴの会です。

## アミーゴの会活動紹介

アミーゴの会は、2003年度より和歌山大学保健管理センター所長  
宮西照夫教授の発案によって発足した、いわゆる自助グループです。

和歌山大学アミーゴの会会長、新井信二さんにお話を伺いました。



### 【アミーゴの会の活動内容】

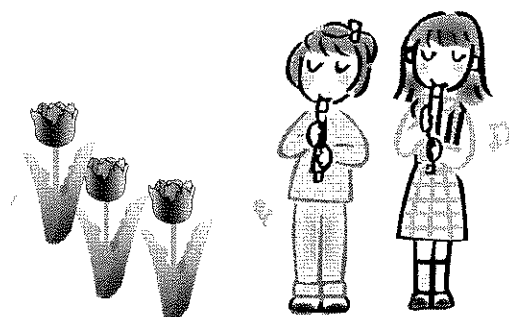
アミーゴとは、スペイン語で仲間という意味を持ちます。1993年より、アミーゴの会の前身である老賢人会が発足しました。老賢人という言葉の意味は、goo辞書 (<http://dictionary.goo.ne.jp/>) によると、「ユング心理学の元型の一。父なるもの、倫理、権威、秩序などを表す。」と表記されていますが、宮西教授の解釈としては、「長く生きた者は賢い。」という事です。当時の老賢人会のメンバーは、学生にしては年齢の高い者が多く、各々の抱えている問題を各々の経験に基づいてアドバイスし合っていたため、そう名づけられました。そして、彼らが社会人へと巣立っていくと同時に、老賢人会はその活動を終えました。

宮西教授は精神科医でもあり、「ひきこもりから抜け出せない。」という相談をいくつか受けています。そこで、ひきこもる若者の家庭や下宿へ、アミーゴの会のメンバーを中心とした同世代のアミーゴ（仲間）を派遣し、ひきこもりからの脱出へと導きます。

アミーゴ派遣は基本的に週2回、1回3～4時間で、

アミーゴには責任を持って努めてもらうために給与が支払われます。

また、アミーゴの会は、宮西教授が顧問を務める「和歌山大学ラテンアメリカ研究会」の活動にも度々参加し、時にはひきこもりに悩む者と共に活動します。更に、毎年夏にはアミーゴの会主催でキャンプが行われ、ラテンアメリカ研究会、アミーゴの会、そして彼らの友人らと共に生活をする事によって、他人との繋がりを持つことの大切さを改めて実感します。



### 【和歌山大学におけるひきこもり回復プログラム】

- Stage I**（導入期）：精神科医の訪問による診断、アミーゴ派遣（家庭教師契約）
- Stage II**（治療期）：個人精神療法、薬物療法。
- Stage III**（仲間作り）：集団精神療法（5，6人）→自助グループ（老賢人会、現在はアミーゴの会）  
→LA研・サークル活動（食事会、キャンプ、ボランティア活動、等）
- Stage IV**（社会参加）

連絡先 〒 640-8510

和歌山市栄谷 930 和歌山大学内  
和歌山大学アミーゴの会

# 「ひきこもり」者の社会参加を願って ～県とNPOが連携～

近年、思春期を中心としたところの問題として「ひきこもり」が社会的に注目されています。ひきこもりには二つの状態があり、一つは精神病疾患による「ひきこもり」です。これは幻覚・妄想などの精神症状が現れ、精神科の医療機関での薬物療法を中心とした治療によって改善することが期待できるものです。もう一つは、「社会的ひきこもり」とよばれるもので、精神科医の齊藤環はこれを「20代後半までに問題化し、6ヶ月以上自宅にひきこもって社会参加しない状態が持続しており、ほかの精神障害がその第一の原因とは考えにくいもの」と定義しています。「社会的ひきこもり」は、薬物療法では効果が見られないことが多く、家族や周囲の人たちも対応に悩み、解決が難しいのが実際です。周囲の人たちの本人や家族に対する理解と共感が改善への第一歩になります。しかし、親が相談にいても「子どもが来ないと・・・」という医療機関も全国的に多くあり、社会的ひきこもりは治療的対応が可能にも関わらず、医師や治療機関、公的機関などの援助が乏しいのが現状です。もっと親が相談できる場、本人が社会に参加できるように援助していける場をつくり、それを支援していける社会的な体制、相互の連携が求められています。これらを背景に和歌山県ではひきこもりの相談からNPO団体と協働した居場所の確保、就労を希望する人たちには少しでも実現できるような援助などを包括的に支援するために以下のような『「社会的ひきこもり」者社会参加促進事業』を実施します。

## 1. ひきこもり相談窓口の明確化

これまでも保健所や精神保健福祉センターでは精神保健福祉士や保健師、嘱託の精神科医がひきこもりを含む精神保健の相談に応じていましたが、実際には社会的ひきこもりと呼ばれるものの相談は少ないのが現状です。県では社会的ひきこもりに関しての相談ができる場所として保健所や精神保健福祉センターがあることを広く県民の皆さんに知って頂くための広報活動を行っていくこととしました。また、その相談にあたる職員に対し、専門研修を実施しこれまで以上の援助技術の向上に努めます。

## 2. 「ひきこもり」者社会参加支援センターの指定

「社会的ひきこもり」者の社会参加をめざし、これまでもその活動に精力的に関わってきた和歌山市と田辺市にある2カ所のNPOを「ひきこもり」者社会参加支援センターに指定し、「ひきこもり」者の居場所の提供、家庭訪問による当事者・家族の支援、家族を対象とした教室や集いの場の企画、回復途上の「ひきこもり」者に対する就労支援などを行います。ひきこもりの支援についてはまだまだ始まったばかりで、地域によっては資源の少なさ等支援に困難を来す場合も予測されるためにこれらの活動は保健所や市町村、他機関と協力しながら進めていく必要があると考えます。

NPO団体と協働することで、公的機関の持つ公共性と民間の持つ柔軟性や即応性が連携し支援の幅が広がることを期待しています。現在、「社会的ひきこもり」者の数は数十万人とも100万人を超えともいわれています。この活動が全国に拡がり、少しでも多くのひきこもりの問題を持つ方々が社会参加できることを願います。

(県健康対策課こころの健康推進班 なかがわ)

### 精神保健福祉センターの特定相談が 変わりました

今回センターだよりでは、ひきこもりのことを中心にお届けしましたがセンターでは、児童思春期を専門にされている宮本先生と大学でひきこもりに取り組んでいられる宮西先生のご協力を得て、思春期精神保健相談を月2回に増やし、ひきこもりにも対応していくことになりました。また、新しく着任したメ崎が心理判定を担当してくれることになり相談を充実させることが出来ました。

相談は、関係機関からの紹介を 基本にしています。

宮本先生の相談日 第2水曜日  
宮西先生の相談日 第4金曜日

県内の精神保健福祉関連の最新情報と当センターの活動をお知らせします。

### こころのケア研修（SST研修）

平成16年3月11日・22日の二日間、25名の定員で、SST普及協会認定講師の岸本徹彦先生をお招きしてSSTの研修を今年度はじめて実施しました。SSTは、本人の希望に基づく目標設定など、個人ごとの夢や願いの実現を図る方法でまさしく当事者主体のサービスへつながるものです。最初は、ロールプレーになれず、ほめることやほめられることになれず、ごこちなかった参加者も研修の終わり頃には、SSTをスムーズに行っていました。病院だけでなく、作業所や就労支援など地域ケアに生かしていただけるよう今後も実施していきたいと思っています。

### 平成15年度思春期セミナー「高機能自閉症（アスペルガー症）の正しい理解について」

平成16年3月9日（火）に国立精神・神経センター精神保健研究所室長の田中康雄先生にアスペルガー症候群や高機能自閉症の子供たちの教育や療育に携わる人が、どのような理解とサポートをしていけばよいか、具体的な援助方法について講義をしていただきました。教育関係者の受講者も多く、定員90名は、数日ではいっぱいになりました。臨床経験に基づく講義は、理解しやすく有意義な講演で、障害の特徴の説明の後、具体的な対応の留意点まで詳細に講義をしていただきました。障害による当事者の生きにくさは、周りの理解と適切な対応や環境調整により随分と軽減する事がわかりました。また、今後も、研修の企画をと言う意見も多く聞かれ関心の高さが伺われました。

### こころの健康講座

平成16年1月19日（月）に「笑いとおの健康」をテーマに元気で長生き研究所所長の昇幹夫先生をお招きして「あなたの笑顔、何より薬！」と題して講演して頂き、78の方が受講しました。心の健康づくりには、「許すことと忘れることである。いつまでも、許さずに人を恨んだり、責めてばかりいるとその毒で自分の心や体を蝕んでしまう。結局は自分を不健康にしているだけである。」というお話や、非真面目の勧め等、笑いを交えたお話は、説得力もあり2時間30分が短く感じられました。

### センター職員が変わりました

4月の異動で精神保健福祉士の長島さんとケアカ-の吉田さんが転出されました。それぞれの着任先での一層のご活躍を期待しています。また、精神保健福祉士の吉岡さんと△崎さんが着任され、新しいメンバーを迎えたセンターでは、力を合わせ精神保健福祉の充実に向けて努力してゆきたいと思っていますので、今後ともご理解とご協力をお願いします。△崎さんは、7月号からセンターだよりの編集を担当してくれます。

### 精神障害者社会復帰関連問題研修会

平成16年2月28日（土）に全国職親会副会長で株式会社ストローク社長の金子鮎子先生をお招きして、講演とシンポジウムが開催されました。作業所等社会復帰施設の職員や職親、行政職員等75人の参加がありました。先生は、社会適応訓練事業を利用した精神障害者の就労支援に長く携わっており、現在行っている取り組みの紹介や国の障害者雇用施策の状況等についてお話しして頂きました。当事者が一般就労に通用できる力を付けてもらうことを会社の方針にして支援していること、そのために当事者に守って頂かなければならないこと、例えば生活リズムをつけ、しっかり食ふことや、連絡は必ずする事などは守って頂いているということでした。そして、東京都の取り組みとして6か月毎に当事者も入って評価を行っており、それが当事者自身の正しい自己評価に繋がっているというお話が印象的でした。講演やシンポジウムを通じて社会復帰適応訓練事業が必要な事業であることを再認識しました。社会復帰適応訓練が単なる事業となり、今後その運営について検討が必要であることが示唆された研修となりました。

### 障害者ケアマネジメント従事者養成研修

2月16日（月）から5日間障害者ケアマネジメント従事者養成研修が行われました。今年度は、精神障害分野で30名が受講しました。最初の2日間は他の障害分野と合同で実施し、3月1日（月）からの3日間は各論を行いました。ケアマネジメントシートを用いて実際に関わっている事例で演習を行いました。多くの受講者が、有意義で実りある研修だったという意見でした。また、具体例を出しながらの講義や演習はイメージが湧きやすく、面接場面やプランの作成、ケア会議等の重要なポイントをつかめたという意見もありました。ケアマネについて理解できたが、これから支援していくにあたり、どう対応していけば良いのかも勉強できたという意見もあり、センターでも今後フォローアップ研修を含めて地域にケアマネジメントを普及していくため研修をすすめていきたいと思っています。

### 朝井所長のひとりごと

今年も楽しくて、ちょっぴり気をもむ季節になりました。

昨年は2勝1敗のペースを守った我が阪神タイガース。今年は出足がよく、あの巨人軍を3タテをくらわして、対対戦強行と思っていたが、その横浜ベイスターズに3連敗。「何たることか？岡田さん!!」すべて責任は岡田監督にあるようなことを考えてみましたが・・・。

おっとりとした岡田さん。去年の星野さんほど喜怒哀楽を表面に出さないけれど、早大のキャプテンで6大学野球のスターだったし、18年前のベース・掛布・岡田のバックスリーンへ3連発の強かった阪神の中心メンバーであり、ファームの監督では日本一を何回も取り、若手選手を育てた実績を考えてもわかるはずである。「おっとり岡田さん、今年がゆっくりとやりましようや」と優勝の次の年は、余裕のあるこの態度。果たしていつまで続くでしょうか。

精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナーを作りました。  
今回は、田辺保健所の保健師、東登紀子さんです。



# はーとふるネットワーク



一 県の保健所に就職して何年になりますか？  
昭和の一番最後の年（63年）に就職して、はや15年になります。

一 保健師さんになろうと思ったきっかけは何ですか？  
看護学校を卒業して、3年半ほど総合病院で看護師をしていました。病棟で出会った患者さんは、皆それぞれの間人模様をお持ちで、型どおりの退院指導をしている私に、「家に帰ったらなかなかそんなふうにはできんよ」と優しく諭して下さる方がいました。退院後は皆どんな生活をされているのだろうと考えるようになり、保健学科に進むことを決めました。ただ、歳とともに夜勤がこたえてきたという理由も隠れています。（笑）

一 この仕事をしていて良かったと思う時はどんな時ですか？  
多くの方と出会えたことです。物事一つにしても短絡的にとらえがちだったのが、いろんな側面があるということを見せてもらえました。

一 保健所の精神保健福祉のお仕事で主にどんなことをされていますか？また、日頃、心がけている事があれば教えてください。  
担当地区の家庭訪問や所内での相談に加え、家族教室や社会適応訓練事業を主にやっています。当たり前ですが、ご本人さんが何を望まれているかよく耳を傾け、ともに考える姿勢であること。それから、ケースを一人で抱え込まず、必要に応じてアドバイスを求めています。

一 谷井さんから癒しのパワーを持っていらっしゃるとご紹介がありました。ご自宅に温泉をひいているという、うらやましいお話も伺いましたが、その癒しのパワーをどのようにたくわえておられるのですか？  
とにかく、「これは！」と思ったことにはどんどんのめりこん

でいきます。映画、雑誌、グルメ、旅行 etc 。  
昔から遊びの計画を立てるのが早い、とよく褒めて(?)もらっていました。心の洗濯をせっせとやっています。  
もちろん遊び疲れた身体は家の温泉でゆっくり癒しています。

一 休日ほどのようにして過ごされていますか？  
遊びの計画がないときは、平日見ないふりしている家の片づけをして、子どもと買い物に行ったりして過ごしています。  
でも時々、びかびかに片づいている夢を見ながらお昼寝をしています。

一 今後の抱負を教えてください。  
就職した頃に比べ、今は保健師も業務分担になり、係が違うとお互いの業務が把握できにくくなっています。今担当している業務はもちろんですが、他の保健福祉の分野についてもアンテナを伸ばして情報を取り込んでいきたいと思っています。  
業務に関しては、私が所属している田辺保健所の生活福祉課では一昨年から思春期精神保健地域サポートネットワーク事業を立ち上げ、関係職種との学習会や教育機関への出前相談等を行っています。医療・保健・教育の垣根を越え思春期のメンタルへの取り組みを、こつこつ続けていきたいと思っています。

一 東さんから、次の方の紹介をお願いします。  
はい。それではお互いの生活エリアが近く、スーパーなどで出会った時、思わず相手の買い物かごをのぞいてしまう間柄の上富田保健福祉センター、鈴木綾さんをご紹介します。  
鈴木さんは社会福祉士で、少し保健師さんシリーズからはずれますが、精神保健福祉業務を担当されています。  
一緒に家庭訪問や相談をさせてもらっていますが、穏やかで誠実なその人柄には頭が下がります。

## センターの研修のお知らせ

**精神保健福祉新任者研修・市町村職員合同研修**  
日 時 平成16年6月16日（水）17日（木）  
場 所 和歌山ビッグ愛  
対 象 精神保健福祉業務に従事して概ね3年以内の担当者（医療機関の職員を含む）・市町村の精神保健福祉担当者  
定 員 100名

募集定員 130人  
**ひきこもり相談従事者研修**  
日 時 平成16年7月2日（金）3日（土）  
場 所 和歌山ビッグ愛  
対 象 ひきこもり相談従事者  
定 員 30名

**精神障害者訪問介護員（ホームヘルパー）講習会**  
講 義 平成16年6月30日（水）  
和歌山ビッグ愛  
施設研修 7/6（火）9（金）15（木）社会福祉法人一委会  
7/7（水）8（木）社会福祉法人やおき福祉会他  
対 象 市町村の指定及び委託をうけている事業所（予定も含む）に勤務するホームヘルパーまたは介護福祉士の資格を有する者

**精神保健福祉協会総会・講演会**  
日 時 平成16年7月1日（木）13:00～  
場 所 和歌山ビッグ愛  
定 員 200名  
主 催 精神保健福祉協会

## 県外等の研修案内

ギャンブル依存症 2004年春のフォーラム 小澤都加佐講演「ギャンブルへののめり込みと回復」	5/16(日)	横浜市
日本家族研究療学会大会 ワークショップ・シンポジウム 精神科デイケア研修	5/28(金)～5/29(土)	千葉県
登校拒否・不登校問題 全国のつどい in 和歌山「エル シティオ」	5/31(月)～6/11(金) 受付 8/23(月)～9/11(土) 日程	国立精神・神経センター 精神保健研究所
日本病院・地域精神医学総会 基本テーマ「つなぐ」講演とシンポジウム	8/28(土)～8/29(日)	白浜町
	10/1(金)～10/2(土)	神戸

## 編集後記

今回のセンターだよりも、盛りだくさんの内容になりました。1年間でしたがセンターだよりの担当をさせて頂き、「内容がパワーアップしてきたね。」とか「楽しみにしているよ」という意見をいただくこともあり、ささやかな幸せとパワーをいただきました。次の方にバトンタッチする事になりましたが、今後ともよろしく願います。ありがとうございました。